



ゆき こおり つめ 雪はどうして冷たいの

ゆき こおり けっしょう つめ 雪は氷の結晶なので冷たい

ゆき ふ くも ちい こおり あつ くも じょうくう き おん
雪を降らせる雲は、小さな氷のつぶが集まってできています。この雲がある上空は気温
ひく くうきちゅう すいじょうき みず こおり おお
が低いので、空気中の水蒸気が水の子ぶにならないで、氷の子ぶにくっついて、だんだん大
きくなり、大きな氷の結晶になります。

ゆき ふ こおり けっしょう ふ
雪は、降ってくるとちゅうでとけずに、氷の結晶のまま降ってきたものです。このよう
ゆき こおり けっしょう つめ かん
に、雪は氷の結晶でできているので、さわると冷たい感じがします。

まわりからねつ まわりから熱をうばう

こおり ねつ ひつよう つめ ところ こおり こおり
氷がとけるには、熱が必要です。冷たい所では氷はとけませんが、氷をてのひらにの
せると、氷がだんだんとけていきます。手が冷たく感じるのは、氷がとけるときに、ての
ひらからねつ
をうばっているからです。

ゆき こおり ゆき つめ かん ゆき
雪も氷からできているので、雪をてのひらにのせると冷たく感じます。やはり、雪がと
けるときも、てのひらからねつ
をうばっています。

こたい おな おんど えきたい ひつよう ねつ りょう かいねつ こおり
固体が、同じ温度の液体になるときに必要な熱の量を、ゆう解熱といいます。氷がとけ
はじ おんど どスイー こおり みず かいねつ
始める温度は、0 です。0 の氷1グラムが、0 の水1グラムになるときのゆう解熱
は、80カロリーです。雪がとけるときに、手からゆう解熱をうばっていくので、雪が冷たい
かん
と感じるのです。(監修・村山 貢司)

